

☐ 1 / 1 FAMPAT - Patent Families -

Available features



©Questel

## JP11226290 VACUUM-STERILIZING AND WASHING METHOD OF WASHING MACHINE

Family Accession Nbr	20042790982493
Patent Number	JP11226290 A 19990824 [JP11226290]
Title	VACUUM-STERILIZING AND WASHING METHOD OF WASHING MACHINE
Patent Assignee	MURAKAMI TAKESHI
Orig. Patent Assignee	(A) MURAKAMI TAKESHI
Inventor(s)	MURAKAMI TAKESHI
Application Nbr	1998JP-0051407 19980216
Priority Details	1998JP-0051407 19980216
IPC	D06F-035/00
IPC Advanced All	D06F-035/00 [2006-01 A F I R M JP]
IPC Core All	D06F-035/00 [2006 C F I R M JP]
FI-Terms	D06F35/00 Z
F-Terms (File forming terms)	3B155 AA15; 3B155 BA02; 3B155 BB16; 3B155 CB50; 3B155 FA30; 3B155 FA38; 3B155 HB05; 3B155 HB12; 3B155 LA12; 3B155 LA14; 3B155 MA01
Citations	(JP11226290) (A) [19] Citation as reason for refusal of an application - JP (A) 1993111592 [JP05111592] - JP (A) 1981101974 [JP56101974] - JP (A) 1991213185 [JP03213185]
Abstract	(JP11226290) PROBLEM TO BE SOLVED: To efficiently sterilize washing without use of sodium environmental and subsequently cleaning washing in a fuel expensessaving and water-saving without damaging washing and environmental pollution. SOLUTION: The inside of a washing machine is kept vacuum and high temperature steam is injected therein to heat it and sterilize and clean washing. The put it concretely, steam (5-7 kg/cm(sup 2)) injected while a vacuum state of 600-700 m/m Hg is kept and the washing tank is rotated for a main or so to sterilize the washing and then hot water of 40 deg.C or so mixed with a detergent is poured in the washing tank and it is rotated for 10-5 min or so to clean the washing. COPYRIGHT: (C)1999, JPO
Update New docs	2000-08

(51)Int.Cl.<sup>8</sup>  
D 0 6 F 35/00

識別記号

F I  
D 0 6 F 35/00

Z

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平10-51407

(22)出願日 平成10年(1998)2月16日

(71)出願人 598028925

村上 豪

広島県尾道市山波町949の1

(72)発明者 村上 豪

広島県尾道市山波町949の1

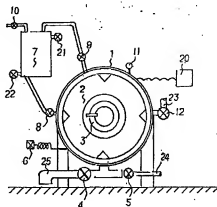
(74)代理人 弁理士 仲根 弘隆

## (54)【発明の名称】 洗濯機に於ける真空殺菌及び洗浄方法

## (57)【要約】

【課題】 次亜鉛素酸ソーダを使用することなく、効率良く被洗物の殺菌を行い、続いて省燃費、省水使用で洗浄が行われるようにする。被洗物の布地を傷めず、且つ環境の汚染防止を図る。

【解決手段】 洗濯機内を真空状態に保ち、その中に高温蒸気を噴射して加熱処理し、被洗物の殺菌と洗濯を行うことを特徴とする。具体的には600~700mmHgの真空を保った状態で蒸気(5~7kg/cm<sup>2</sup>)を吹込み、洗濯槽を5分ぐらい回転させて被洗物の殺菌を行い、40℃ぐらいで洗剤の混入された温水を洗濯槽内へ注ぎ、洗濯槽を10~15分程度回転させて洗浄作業を行う。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 洗濯機内を真空状態に保ち、その中に高温蒸気を噴射して加熱処理し、被洗物の殺菌と洗濯を行うことを特徴とする洗濯機に於ける真空殺菌及び洗浄方法。

【請求項2】 洗濯機の洗濯槽内に被洗物を入れ、600～700mm/mHgの真空を保った状態で蒸気(5～7kg/cm<sup>2</sup>)を吹込み、洗濯槽を5分ぐらい回転させて被洗物の殺菌を行うことを特徴とする請求項1記載の洗濯機に於ける真空殺菌方法。

【請求項3】 請求項2記載の殺菌処理後、40℃ぐらいで洗剤の混入された温水を洗濯槽内へ注ぎ、洗濯槽を10～15分程度回転させて洗浄作業を行うことを特徴とする洗濯機に於ける真空殺菌及び洗浄方法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は洗濯機に於ける新規な殺菌方法及び洗浄方法の提案に係る。

【0002】

【従来の技術】 現在、大問題になって世間を騒がせている大腸菌O-157等も熱には弱く、摂氏80℃の湯に10分間浸漬すれば、完全に死滅するとされている。洗濯業界(特にオシボリ、オムツ)に於いても、一応法的には80℃の温度で10分間洗濯するよう保健所の指導があるものの、実行には困難な問題がある。

【0003】 何故ならば、80℃まで洗濯機内の温度を上昇させて洗濯するためには相当大きなボイラーが必要で、燃料、洗濯時間等を計算すると採算ベースに乗らない。

【0004】 このことは洗濯機の内胴内に被洗物を入れ、洗濯槽を運転しながら水を給水して蒸気を吹き込み、洗濯温度を80℃まで上昇させると、冬期には洗濯機内温度を80℃まで上昇させるには30分以上もかかり、その上80℃の温度で10分間洗濯すると、洗うだけで40～50分かかる、スギまで入れると1回の洗濯が1時間以上かかってしまう。従って、やむなく洗濯温度は60℃位までしか上げず、殺菌は高濃度の次亜塩素酸ソーダを使用しているのが現状である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の上記の点に鑑み、次の問題点を解決せんとするものである。

- ① 大型ボイラーが必要(燃料が多くなる)
- ② 殺菌に高濃度の次亜塩素酸ソーダを使用するため、タール、オシメなどの寿命が短い(約3ヶ月毎に新品と交換)
- ③ 上記のスギには4回程度を必要とすることから、大量の水を使用する。
- ④ 次亜塩素酸ソーダの使用は排水路に悪臭を発生し、公害問題となる。
- ⑤ 生産コストが高くなる。

- ⑥ 1回の洗濯時間が長い。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本考案は上記問題点を解決せんとするものであって、その特徴とするところは、洗濯機内を真空状態に保ち、殺菌処理を行うと共にその中に高温蒸気を噴射して加熱処理し、被洗物の殺菌と洗濯を行うことにある。以下、本発明の実施態様について説明する。

【0007】

【発明の実施の形態】 図面は本発明で使用する洗濯機の模式図であって、図1は正面図、図2は背面図である。各図で1は洗濯機外胴、2は洗濯槽、3は開閉ドア、4は排水電磁弁、5は蒸気電磁弁、6は温度計、7は給湯タンク、8及び9は給湯電磁弁、10はオーバーフロー逆止弁、11は真空計、12はススギ用水電磁弁、13は主プーリー、14は洗い用モータ、15は脱水モータ、16は真空解除電磁弁、17はエアークエッチ電磁弁、18は真空ポンプ吸引管用逆止弁、19は真空ポンプ、20は操作盤、21は給水電磁弁、22は蒸気電磁弁である。なお、23はススギ用の水道管、24はボイラーからの蒸気管、25は排水管、26は運転中に洗濯槽中大気以上の圧力がかかった場合の安全用の逆止弁である。

【0008】 上記装置に於いて、洗濯槽2内に被洗物(オシボリ、オシメ等)を投入し、開閉ドア3を締めると共に真空ポンプ19を動作させて機内をできるだけ高い真空状態(600～700mm/mHg)にすると共に、その中に高温の蒸気(5～7kg/cm<sup>2</sup>)を吹込むのであり、すると約3～4分で被洗物の温度は90℃～95℃まで上昇する。

【0009】 しかし、上記状態で洗濯槽を5分ぐらい回転させると完全な殺菌作用が行われるものとなるのであり、次に給湯タンク7内へ貯留されている40℃ぐらいの温水(洗剤が混入されている)を電磁弁8及び9を開放して洗濯槽2内へ注ぐ。このとき洗濯槽2内は真空状態を保っており、槽内温度が90℃ぐらいにあるので、上記40℃で注がれた温水は50℃ぐらいに上昇し、適度の洗濯温度となる。

【0010】 上記状態で約10～15分程度洗濯槽を回転させながら、洗濯作業を行うのであり、真空状態下のため繊維の中まで洗剤が良く浸透し、大変汚れ落ちも良いものとなる。

【0011】 その後、エアークエッチ電磁弁を開いて真空状態を解除すると共に、排水電磁弁4を開放して排水を行いながら荒脱水を行い、次に排水電磁弁4を閉じてススギ用水電磁弁12を開放し、ススギ水を給水して凡そ3分程度ススギ洗いを行うのであり、あと最終脱水を行って洗濯工程を終了するのである。本発明では殺菌処理に次亜塩素酸ソーダを使用しないため、ススギは1回で充分なものとなる。全工程の所用時間は35～40分程度であって、従来の半分程度に短縮できるものとなる。

【0012】

【発明の効果】本発明方法は以上の通り実施するものであり、本発明方法によれば次の如き優れた作用効果を奏するものである。

- ① 完全殺菌が短時間で簡単にできる。(安全)
- ② 洗濯時間を短縮する(従来の半分程度で省エネ)
- ③ 被洗物布地を傷めない(耐用効率の向上)
- ④ 使用水の節約(従来の約3分の1)、従って排水量も約3分の1に減少する。
- ⑤ 臭公害防止(環境問題排除)
- ⑥ ボイラー設備は比較的小さいもので良い(設備費の節約)

【図面の簡単な説明】

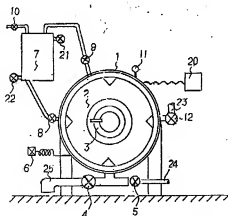
【図1】本発明で使用する洗濯機を模式的に示す正面図である。

【図2】同背面図である。

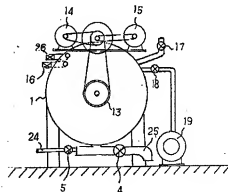
【符号の説明】

- 1 洗濯機外胴
- 2 洗濯槽
- 3 開閉ドア
- 4 排水電磁弁
- 5 蒸気電磁弁

【図1】



【図2】



【手続補正書】

【提出日】平成11年2月1日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】洗濯機の洗濯槽内に被洗物を入れ、60

- 6 温度計
- 7 給湯タンク
- 8, 9 給湯電磁弁
- 10 オーバーフロー用逆止弁
- 11 真空計
- 12 ススギ水用電磁弁
- 13 主プーリ
- 14 洗いモーター
- 15 脱水モーター
- 16 真空解除電磁弁
- 17 エア抜電磁弁
- 18 真空ポンプ吸引管用逆止弁
- 19 真空ポンプ
- 20 操作盤
- 21 給水電磁弁
- 22 蒸気電磁弁
- 23 ススギ水道管
- 24 ボイラーからの蒸気管
- 25 排水管
- 26 洗濯槽内が大気圧以上の圧力が加わった場合の安全用逆止弁

0～700mmHgの真空を保った状態で5～7kg/cm<sup>2</sup>の蒸気を吹込み、洗濯槽を5分ぐらい回転させて被洗物の殺菌を行うことを特徴とする洗濯機に於ける真空殺菌方法。

【請求項2】請求項1記載の殺菌処理後、40℃ぐらいで洗剤の混入された温水を洗濯槽内へ注ぎ、洗濯槽を10～15分程度回転させて洗浄作業を行うことを特徴とする洗濯機に於ける真空殺菌及び洗浄方法。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】本考案は上記問題点を解決せんとするものであって、その特徴とすることは、洗濯機の洗濯槽内に被洗物を入れ、600～700mmHgの真空を保った状態で5～7kg/cm<sup>2</sup>の蒸気を吹込み、洗濯槽を5分ぐらい回転させて被洗物の殺菌を行う。而して、上記の殺菌処理後、40℃ぐらいで洗剤の混入された温水を洗濯槽内へ注ぎ、洗濯槽を10～

15分程度回転させて洗浄作業を行うようにする。

## 【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】上記装置に於いて、洗濯槽2に被洗物（オシボリ、オシメ等）を投入し、開閉ドア3を締めると共に真空ポンプ19を作動させて機内を600～700mmHgのできるだけ高い真空状態にすると共に、その中に5～7kg/cm<sup>2</sup>の高温蒸気を吹込むのであり、すると約3～4分で被洗物の温度は90℃～95℃まで上昇する。